

Traf3ip2/Act1 欠損マウスを用いた TNCB 接触皮膚炎誘導モデルの病態解析

○仲宗根 佑<sup>1</sup>, 小林 雄高<sup>1</sup>, 相馬 加奈<sup>1</sup>, 鈴木 雄一<sup>1</sup>, 吉田 梓<sup>1</sup>, 佐藤 瑠璃子<sup>1</sup>, 松島 芳文<sup>2</sup>, 佐藤 卓美<sup>1</sup>, 村松 信<sup>1</sup>, 井上 俊夫<sup>1</sup> (<sup>1</sup>日本薬大, <sup>2</sup>埼玉県立がんセンター)

【目的】日本産野生マウス KOR1 から松島ら(Matsushima et al. *J. Immunol.* 2010) によって見出された Traf3ip2/Act1 欠損マウスは自発的な掻痒行動を示し、NF- $\kappa$ B の活性化と IL-6 やケモカインの調節異常によって、乾癬に類似した症状を示すことが知られている。本研究では、Traf3ip2/Act1 欠損マウスを用いて TNCB 接触皮膚炎誘導モデルを作製し、接触皮膚炎の発症における NC/Nga マウスとの差異を検討するとともに、Traf3ip2/Act1 の接触皮膚炎の発症への関与を検討した。

【方法】実験には 3 週齢の雌性 BALB/c コンジェニック系 Traf3ip2/Act1 欠損マウスおよび NC/Nga マウスを用いた。SPF 環境下において両マウスの、耳介の外側および内側、背部に 2,4,6-trinitro-1-chlorobenzene (TNCB) を 1 週間間隔で反復塗布し、掻痒行動、皮膚炎スコア、耳介の腫脹および血清 IgE を測定した。

【結果・考察】TNCB の反復塗布を行い Traf3ip2/Act1 欠損マウスと NC/Nga マウスについて掻痒行動を観察したところ、Traf3ip2/Act1 欠損マウスで初期から掻痒行動が著明に増加することが明らかになった。現在、血中総 IgE 濃度測定及び病理組織学的評価を検討中である。